

# 巻頭言

## 「朝顔」

理事長 新谷 友良

ここ何年か、入谷の朝顔市で朝顔を買っています。今年は何やかや用事があって、最終日の7月8日午後になって漸く一鉢買ってきました。4色の行灯仕立てで赤・青・白・藤色（団十郎？）の花が咲きます。朝顔市の一鉢ではさみしいので、近くのスーパーマーケットの園芸品売り場でも二鉢買いました。値段にずいぶん差があるのに、スーパーマーケットの朝顔も結構頑張っていて、開いた状態の持ちは入谷のものより長いものもあります。

朝顔の花は前の日につぼみが膨らみ始めるので、大体どれぐらいの花が咲くかは想像ができます。そして、日の出とともに開き始め、日差しが強くなる9時ごろに完全に開くように思えます。寝苦しい夜が明けて、少しひんやりとした空気の中で、それぞれの鉢が競い合って付けている何輪かの花を見るのは夏の数少ない楽しみです。小学生のころの記憶では、夏休みが終わるころには朝顔も終わりでしたが、今は温暖化の影響か9月末までは大丈夫。しっかり水をやっておけば、10月でも花をつけるものもあります。柔和な花に似合わず朝顔の根やつるは丈夫でしたたかです。

実は、この巻頭言を書いているのは7月です。書いているときにはぴったりと思う朝顔の話題も、この協会ニュースが届く9月にふさわしいかどうか気にかかり、歳時記を調べてみましたら、朝顔は秋の季語となっています。俳句の季語の決まりはよく知りませんが、旧暦では秋は7月から9月とされているのが理由の一つかもしれません。歳時記の解説では「秋の訪れを告げる花。夜明けに開いて昼にはしぼむ。日本人はこの花に秋の訪れを感じた」とあります。そういえば、槿や向日葵とは違って、朝顔はこれから夏に向かうといった感じはあまりしません。最近の9月は暑い日が多いので、細かな詮索なしに今年の協会ニュース9月号には「朝顔」が似合うと信じて今月の巻頭言とします。

歳時記を繰りましたので、興味を覚えた句を二つ。

朝顔やおもいを遂げしごとしぼむ  
補聴器を持つ人秋を聴きにけり

日野草城  
阿波野青畝